

01-030

発達障害疑いのある子どもに対するMRI検査前のプレパレーション導入による効果

元山 真梨亜、相木 恵美

倉敷成人病センター

【はじめに】

発達障害疑いのある子どもは、状況判断が難しく予想がつかない場面では混乱に陥りやすい。プレパレーションとは、入院による混乱に対し、準備や配慮をすることで悪影響を和らげ、子どもの対処能力を引き出すと言われている。そこで、発達障害の疑いのある子どもに対しMRI検査前にプレパレーションを行うことで、不安なく検査が受けられるのではないかと考えた。

【目的】

発達障害疑いのある子どもに対しMRI検査前のプレパレーションを実施し導入前後で結果がどのように変化したか検証した。

【方法】

1. 研究デザイン：介入研究 2. 研究対象者：MRI入院をする3歳児から5歳児24人と家族。3. 調査内容：対象児の背景、研究者が作成した「プレパレーション効果評価表」を用い、プレパレーション前後のバイタルサイン測定実施状況、鎮静剤内服状況、MRI検査、検査後のモニター装着の可否、子どもと家族の様子について、年齢別でも状況比較した。4. 研究の概要を子どもと家族へ説明し家族の同意を得た。倉敷成人病センター倫理委員会（承認番号1047）の承認を受け実施した。

【結果】

検査入院の主訴は、集中できにくいのが最も多く、次いで言葉の遅れであった。プレパレーション前後のバイタルサイン測定実施状況、鎮静剤内服状況、MRI検査、モニター装着の可否について、導入前後で、「できる」「促されてできる」が半数以上で、年齢別でも同様の結果であった。しかし、拒否や嫌がりパニック状態なる子どももいた。子どもと家族の様子から子どもは落ち着きのなさや、声掛けするが近くに来ようとしない様子があった。プレパレーション実施時の子どもの様子は真剣に聞くことができている子どもと、興味を示さない子どもがいた。家族の様子はバイタルサイン測定時子どもの抵抗があっても、家族からの声掛けや協力で実施できた。子どもができた時には、褒めるなどの声掛けがみられた。

【考察】

発達障害疑いのある子どもへのプレパレーション導入前後の結果を比較した。前後での違いはなかったが、拒否や混乱を起こす子どももいた。発達に特性がある子どもは、状況認識が難しく、予想がつかない場面では混乱に陥りやすい。そのためには、家族から子どもへの声掛けや協力も重要であり、子どもの特性を理解し、その子どもに応じたプレパレーションツールの作成や説明内容を選択し検討する必要がある。

01-031

親子関係の良好な自閉スペクトラム症児と養育者の特徴

長 志保、牛腸 昌利、藤本 幹

国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科、
国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所

【はじめに】

自閉スペクトラム症（以下ASD）児の養育者の精神的健康は養育行動に関連し、その養育行動は子どもに影響を与えることが指摘されており、親子は相互に作用し合いながら生活をしている。ASD特性は児童期から青年期への移行期において社会的不適応だけでなく、心理面にもネガティブな影響を及ぼすことが示されている。また、ASD児の養育者においても抑うつ・不安・育児ストレスが強いと言われているが、関係性の良い親子も存在する。

本研究の目的は、関係性の良好なASD児と養育者を対象に、親子の交流の特徴に影響を与えている背景を検討し、親子関係を支援する作業療法士が持つべき視点について提言することである。

【方法】

対象者は、親子を紹介した教員・セラピスト等の専門家と親自身の双方の視点から関係性が良好であると判断されたASD児と養育者。以下3種類の半構造化面接・アンケート調査を実施した。①標準化適応行動尺度（以下Vineland-II）②養育レジリエンス要素質問票（以下PREQ）③育児に関する自由記載。なお、本研究は国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を受け実施した。

【結果】

研究対象は3組の親子となった。Vineland-IIの結果、全対象児が先行研究で示されているASDの特徴と一致した。そのため、子どもの適応行動能力の高さに関わらず、良好な親子関係を築くことができることが分かった。PREQでは、中央得点を下回る項目はなかった。また、全ての養育者が「周囲に相談できる存在がいる」という項目に最高得点を付けていた。さらに自由記載より、養育者は子どもの特徴を理解し、苦手に対する許容範囲を設定していることや、視覚的な工夫、肯定的な声掛けというような様々な工夫を行っていること、子どもとの生活を楽しんでいること等が示された。

【考察】

本研究より、周囲の存在の重要性、そして、ASD児と過ごすライフスタイルを養育者が受け入れ、子供との生活を楽しんでいることが親子関係に大切な要素であることが示された。親子の楽しそうな様子を見ることで、周囲も親子関係が良好であるという印象を受けると思われる。そのため、養育者はASD児の特性を理解し代償方法を獲得すること、ASD児は養育者の代償方法に適応することが大切であると考えられる。さらに、「親子のライフスタイルの築き方」が良好な親子関係を築く上で大切な要素であると考えられる。